

《第八報》

セーブ・ザ・チルドレン ハイチ地震緊急支援活動

ラジオで赤ちゃんの命を救え！

母乳育児の大切さをクレオール語の歌にのせて

社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

1月に発生した大地震により甚大な被害がもたらされたハイチでは、雨季の到来により、感染症の蔓延が懸念されています。子どものための国際NGO セーブ・ザ・チルドレン（SC）では、赤ちゃんの命を救うために必要な保健や栄養の知識を、クレオール語（ハイチの現地語）の歌にのせ、ラジオを通してハイチの母親に伝える活動を開始します。

歌は全4曲。母乳育児、乳幼児の食事、赤ちゃんの“げっぷ”などをテーマにしており、生まれたばかりの赤ちゃんを予防可能な病気や栄養不良から守るためのコツやヒントを学べる内容になっています。これらの歌は、SCとハイチの保健省、アメリカの国際開発支援団体により、現地のコミュニティや子どもたちとともに、震災前にクレオール語で制作されたものです。SCではこれらの歌を地元ラジオ局と国際放送局で放送し、一人でも多くの子どもたちの命を守ることができるよう被災者に啓蒙を行なう予定です。

♪「母乳とげっぷの歌」（日本語訳）

赤ちゃんを産んだら、すぐに母乳をあげてね。
このことを忘れないで。

<コーラス>

赤ちゃんが生まれたらすぐにおっぱいをあげよう
赤ちゃんが健康に生きるために
赤ちゃんが生まれたらすぐにおっぱいをあげよう
すくすく育て、強い子になるよ

赤ちゃんにげっぷをさせるのを忘れないで
おっぱいをあげたら早い段階で
赤ちゃんが両方のおっぱいを飲んだあとにね



Adriana Zehbrauskas/Polaris

母乳の大切さを伝えるため、キャンプを回るキャスリン

「ハイチに雨季が迫っています。地震後に次々と発生した人口密度の高いキャンプでは、汚染された水と貧弱な排水システムにより、水に起因する病気の発生が助長され、子どもたちを死に至らしめるマラリアと下痢の蔓延が懸念されます。SCでは特にキャンプで出産した女性に対して、赤ちゃんや幼児に汚染された水を与えず、母乳で育児をすることを推奨しています。これらの情報は、人々が自らの言語で知ることによって、大きな効果をもたらします。被災地の人々が情報を得るのはラジオからです。音楽は自然に耳に入り、人々は好きな音楽のメロディーやメッセージを記憶します。音楽にのせた呼び掛けは、赤ちゃんを救う効果的な方法です。この活動が明日の彼らの命を救うと信じています。」（ハイチ在 SC 保健・栄養ディレクター キャスリン・ボールズ）

全4曲の音源、歌詞(クレオール語・英語)をご用意しております。是非、日本でもご紹介いただければ幸いです。ご要望ございましたら、広報担当までご連絡ください。

ハイチ地震緊急支援基金のご寄付のお願い

【ゆうちょ銀行から】

口座番号 00980-7-57019 加入者名 セーブ・ザ・チルドレン・緊急援助基金

* SC が払込手数料を負担させていただき専用払込用紙をご希望の方は下記までご連絡ください。

電話 0120-317-502(平日 9:30~18:00) E-mail donation@savechildren.or.jp 件名「ハイチ振込用紙希望」と記入

【クレジットカードでご利用の場合】

<http://www.savechildren.or.jp/contribute/index.html> 「緊急支援に寄付する」をご選択ください。

■セーブ・ザ・チルドレン

1919年に設立した子ども支援NGO。数少ない団体にだけ認められた、国連経済社会理事会(UN ECOSOC)のNGO最高資格である総合諮問資格(General Consultative Status)を取得しています。年間予算は1,000億円を超え、現在、世界で29カ国のそれぞれ独立した組織が、パートナーを組み、世界最大のネットワークを活かして、120カ国以上で活動を展開しています。90年渡る活動は、世界のNGOの代表格として各国政府からもその重要性を認められています。